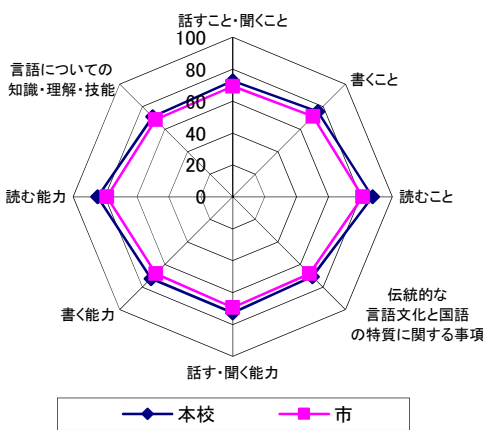


宇都宮市立横川東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	72.7	69.3	73.4
	書くこと	75.5	71.3	74.6
	読むこと	87.6	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.8	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	72.7	69.3	73.4
	書く能力	72.4	68.1	71.7
	読む能力	84.6	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	70.9	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

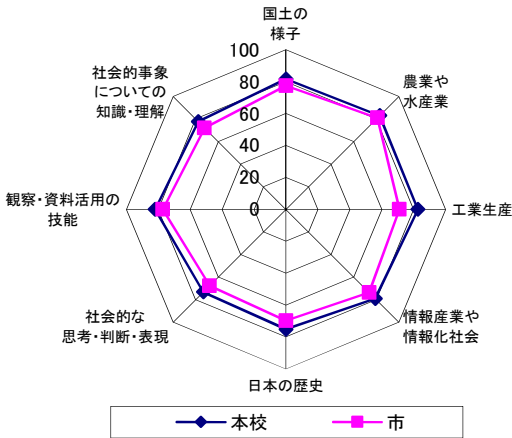
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話合いの内容を聞き取る問題については、正答率が72.7%で市の平均よりも3ポイント上回っている。特に話合いの工夫を考えながら内容を聞く問題では、正答率が90%以上と高い。 ●話し手の意図を考えながら内容をまとめる問題については、市の平均と比較すると5ポイント以上上回っているが、正答率は35.7%と低い。	・ただ聞くだけでなく、聞いたことから話し手の意図を考える、話し手の意図をくみ取って文章にまとめる、自分の意見をもって伝え合うなど、聞いたことを活用するような学習を話合いの場で意図的に設定していくことで定着を図る。
書くこと	○理由や事例を挙げて文章を書く問題では、正答率が73.9%で、市の平均を11.3ポイント上回っている。また、自分の意見を明らかにして文章を書く問題では、正答率が96.3%と高い。 ●2段落構成で文章を書く問題では、正答率が72.8%で、市の平均より2.5ポイント低くなっている。	・作文の学習では、段落や文字数を指定して文の構成を考える活動を授業の中で取り入れていく。限られた文章の中で、伝えたいことを明確に表現できているかについても振り返る活動を取り入れ、意識させていきたい。
読むこと	○物語の内容を読み取る問題では、どの設問においても市の平均を上回っている。特に場面の描写を読み取る問題では、正答率が89%と市の平均より8.8ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題についても、正答率が82.8%で市の平均を8.1ポイント上回っており、多くの児童が文章の内容を的確に読み取ることができている。	・音読や読書活動を積極的に取り入れ、一つの本の内容を深く読み取らせたり、様々な文章に多く触れさせたりしてきた。今後も、積極的な読書活動を継続する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みでは、正答率94.7%で市の平均を3.9ポイント上回っている。 ○漢字の書き取りでは、正答率61.6%ではあるが市の平均を3.9ポイント上回っている。 ●同音異字を問う問題では、正答率77.9%と市の平均を2.7ポイント下回っている。 ●適切な敬語を選ぶ問題では、謙譲語・尊敬語ともに正答率が50%以下と半数以上の児童が誤答だった。	・漢字の読み書きや同音異字については、今後もプリントやドリルを使って定着を図る。 ・敬語については、日頃から相手に合わせた言葉遣いを意識させたり授業で取り上げたりして定着を図る。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	81.8	77.5	74.0
	農業や水産業	83.1	81.1	73.7
	工業生産	82.7	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	79.0	73.7	63.2
	日本の歴史	75.1	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.2	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	82.1	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	77.8	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

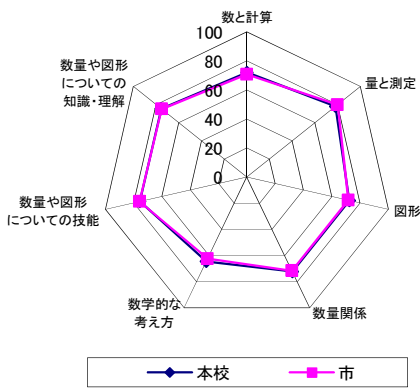
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	○領域別では、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ○日本の周辺の海洋名、日本の気候の様子、森林を守るための間伐、自然災害時の自助の大切さについて、市の平均を上回っており、良好な状況である。 ●日本の周囲国の国旗については、市の平均を5.4ポイント下回っており、課題が見られる。	・授業の導入や調べ学習の中で、地図帳を積極的に活用し、国の特徴や国土の様子について、その都度確認していく。また、グラフや表を基に考えさせる場を意識的に多く設定し、資料を活用する技能を高めていく。 ・国旗について、単なる暗記にとどまるのではなく、我が国との関係や国の特徴とも関連させながら習熟を図る。
農業や水産業	○領域別では、市の平均を2ポイント上回っている。 ○米の生産が盛んな地域や日本の食料自給率について資料から読み取ることに關して、正答率が9割以上と良好である。農業や食料生産がかかえる課題等、資料を基に考えることに關しても、市の平均を上回っている。資料を読み取り、考える活動を行ってきた成果であると考え。	・引き続き、資料を読み取るだけでなく、資料から分かったことや考えたことを文章でまとめたり、伝え合ったりする活動を取り入れ、児童がより理解を深められるようにする。また、複数の資料を相互に関連させながら読み取り、表現する活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力を高めていく。
工業生産	○領域別では、市の平均を11.6ポイント上回っている。 ○工業製品の分類、工業地帯・工業地域の立地の両設問において、市の平均を上回っている。資料を基に考えたり、立地の要因を説明したりする活動を行ってきた成果であると考え。	・引き続き、表やグラフから情報を読み取ったり、考えたことを表現したりする活動を授業に取り入れ、理解力を高めていく。また、工業製品を身近に感じながら課題を追及できるよう、問いを工夫したり、工場見学等の体験的活動を取り入れたりする。
情報産業や情報化社会	○領域別では、市の平均を5.3ポイント上回っている。 ○身の回りのメディアの種類と特色、情報ネットワークの利便性の両設問において、市の平均を上回っている。販売業における情報ネットワークについて、コンビニエンスストアのマネージャーによる出前授業などを通して具体的に理解したことの成果であると考え。	・身近な暮らしの中にある情報活用や情報ネットワークについて、児童自身の身近な生活と関連付けながら、具体的に理解させていく。そのために、引き続き出前授業等を活用し、ゲストティーチャーやボランティアティーチャーなどを通して情報産業の理解に努めていく。
日本の歴史	○領域別では、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○織田信長の動きや国際社会で活躍する日本人等の資料を読み取ること、人物名等の知識に關して、市の平均を上回っている。 ●大和朝廷による国土の統一等、資料を基に考えることに關して、市の平均を上回っているものの27.2ポイントと正答率が低くなっている。	・人物の学習を中心に、業績や時代背景、思いや願い等を捉えさせ、歴史的事象の基本的な知識の定着を図っていく。また、資料を基に出来事の要因や背景等を考えたり話し合ったりする活動を取り入れ、歴史的事象の意味について理解を深めていく。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.1	70.8	65.9
	量と測定	78.1	79.9	77.0
	図形	72.4	71.8	74.6
	数量関係	72.2	71.7	73.4
観点別				
	数学的な考え方	64.5	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	75.7	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	75.5	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

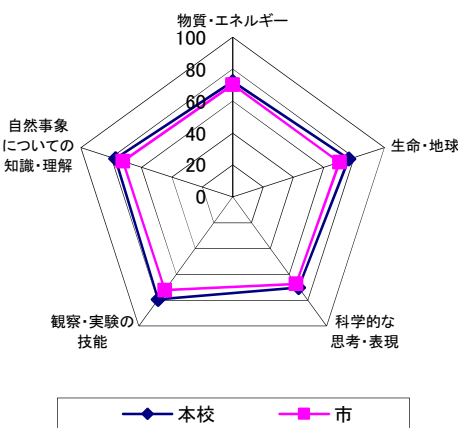
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○正答率は、市の平均を1.3ポイント上回っている。 ●小数第一位×小数第一位の計算は1.9ポイント、小数第二位÷小数第一位の計算は1.3ポイントとともに市の平均を下回っている。 ●分数同士のわり算の計算は5.1ポイント市の平均を下回っている。	・計算力の向上を目指して、年2回計算オリンピックを実施してきた。また、授業では、習熟度別編成で個別指導を行い、つまづきを解消することに取り組んできた。引き続き、計算力の向上を目指した取組を継続して行っていきたい。
量と測定	●正答率は、市の平均を1.8ポイント下回っている。「面積と体積」に関する問題は、市の平均と同程度か上回っていて理解できていると考えられる。 ●値に0があり、答えが小数になる連続量の平均を求める問題では、市の平均を6.1ポイント下回っていて、単位量あたりの大きさ・速さの問題は定着度に個人差が大きいと考えられる。	・単位量あたりの大きさを問う問題では、公式を覚えるだけでなく、問題を正しく捉えて活用することができるよう習熟を図る。
図形	○平均正答率は、市の平均を0.6ポイント上回っている。合同な三角形の作図は、市の平均を3.7ポイント上回っている。 ●五角形の内角の和を求める式を選ぶ問題では、正答率が48.5%と低い数値だった。 ●線対称な図形の対称の軸を選ぶ問題は、市の平均を7.9ポイント下回り、正答率が44.1%と特に低い数値だった。	・線対称の問題の誤答を分析すると、問題を読み間違えていたり、対称の軸を重複して数えたりしていた。問題を読み取る際に問われているものにアンダーラインを引いたり、重複を避けるために図形に印をつけたりするなど、丁寧に取り組むように習慣付けたい。
数量関係	○平均正答率は、市の平均を0.5ポイント上回っている。特に、比例の関係を、xとyを使って式に表す問題では、市の平均を2.4ポイント、反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題では、4.7ポイント上回っている。 ●2つの文字を使って表された式について、一方の文字の値から他方の文字の値を求める問題では市の平均を4.6ポイント下回っている。 ●いろいろなグラフの読み取りでどの資料から読み取った事柄であるか選ぶ問題では、市の平均を2.5ポイント下回っている。もとにする量が同じとき、割合が大きいほうが比べる量が多くなることを具体的に説明する記述の問題では、市の平均を2.6ポイント上回っているが、37.1%を正答率が低くなっている。	・文字の式や記述式の解答に対して苦手意識があるようである。普段から類似する問題を継続的に解いたり、自主学習で復習したりさせることで学習内容の定着を図る。

宇都宮市立横川東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	72.2	70.3	69.0
	生命・地球	76.5	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	70.3	67.5	66.4
	観察・実験の技能	79.4	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	77.2	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○発芽における必要な条件や振り子の周期を求める実験、リトマス紙を使っての水溶液の性質を見分ける実験などの問題では、高い正答率を示している。授業で実験を中心に学習を展開してきたことで効果が出たものと考ええる。 ●その実験でどのような結果が得られるか、また、同じ周期の振り子を探するなど、得られた結果を用いて他の事象に活用する場面など、思考力を必要とする問題で課題が見られた。	・実験の目的の明確化と予想・結果・考察・まとめという一連の思考過程を大切に扱いながら、丁寧に行うことで、その実験から得られることを理解させるとともに、身の回りで起こる事象と結び付けようになりたい。さらに表現力の育成を図る。 ・今後も観察や実験が、理解しやすく、また、実感を伴って行えるように、実験方法や道具や装置を工夫する。また、学習環境の整備や実践用具・器具の充実を図る。
生命・地球	平均正答率は、市の平均と比べて全体的に高い。 ○人体や植物の各部分の名称や働き、食物連鎖や月の満ち欠けが起こる理由など、きちんと理解している。 ●覚えるべき用語が増えたり、似ている用語が出てくると、誤る場合がみられた。また、各部分の働きを確かめるための実験を通して思考する問題で、誤答が見られたことが課題として挙げられる。	・今後も視聴覚教材等を活用しながら、できるだけ実感を伴った学習内容の理解を促していく。 ・学習した内容をできるだけ日常生活で起こる事象と関連付けて考えることができるよう引き続き指導していく。 ・実験の目的の明確化と予想・結果・考察・まとめという一連の思考過程を大切にしながら理解させるとともに、身の回りで起こる事象と結び付け、考えさせるようにしたい。

宇都宮市立横川東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の定着と主体的な学習態度の育成	「朝一学習」(月・水・金:読書, 火:国語, 木:算数)を日課表に位置付け, 基礎基本の定着, 進んで学習に取り組む習慣付けを図る。	学習と生活のアンケートから, 学習に対して「自分から進んで取り組んでいる」児童は, 平均84.5%であり, 学年間の差はあるが, 良好な結果であった。しかし, 昨年度よりも低くなっている。
目標の明確化と学習を振り返る活動の充実	学習のめあてを明確にし, 授業を構造化することによって, 児童自身が学習を振り返りやすくするとともに, 次の学習への意欲付けを図る。	「勉強が好きですか」の肯定的割合は80.5%, 「勉強をしていて, おもしろい, 楽しいと思うことがある」児童は, 平均90%となっており, 学習に対して良好な意識が育まれていることが分かる。
思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に人に伝える「説明」「話し合い活動」の充実	記述式の問題に慣れることやいろいろな分野の情報や活字に触れさせることにより, 語彙を増やしたり文章の組み立て方を身に付けたりさせる。算数では, 文章を読んで図式化するなど, 思考を助ける活動にも取り組むようにする。	学習内容定着度調査では, 「活用」の平均正答率が4教科で市を2.9～5.9ポイント上回る結果となり, 思考力・表現力が向上していることがうかがえる。学習と生活のアンケートの「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」児童の肯定的割合は, 平均83%を超えている。
家庭学習の充実	「家庭学習の手引き」を活用して, 計画的に家庭学習を行うことができるような働きかけや児童の取組や努力への称賛等, 個々の児童に応じた支援への理解と協力を得よう努力する。	「宿題」についての肯定的割合は, 平均92%を超え良好であるが, 否定的割合が10%を超えた学年もあった。「自主学習」については, 6年生では81%の児童が自主学習に取り組むことができているが, 学年によって差が大きく, 今後の課題である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学習・生活アンケートの結果から, 学習に主体的に取り組もうとする態度は身に付いてきていると言える。しかし, 基礎基本の定着はまだ十分とは言えない状況である。効果的な学習になるよう, 取り組み方の見直しを図る。思考力や表現力のさらなる向上を図るためにも, 土台を固めることが必要と考える。

・「宿題はきちんとやり, 期限までに出している」と答えた児童は9割と良好な結果だった。しかし, 「自分で計画を立てて家庭学習をしている」については, 6年生に比べて3～5年生の意識の低下が目立った。否定的割合も10%前後あった。6年生の取組を参考に, 次年度は学年ごとの取り組み方を明確にし, 共通理解を図って指導に当たる。

・「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」児童の割合は, 平均83%を超えた。話し合う活動を取り入れる学習を各教科で取り入れてきた成果であり, 今後も継続していく。しかし, 根拠をあげて説明したり, いろいろな視点や立場から考えることは十分とは言えない。次年度は, さらに指導法を工夫, 改善し, 話し合い活動を充実させる。